



市民活動の 新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り込む市民活動は各地です。野を広げている。フアイサーではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユークラスと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2002年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は第5回)でレポートする。



写真上/週に2日行われている、理学療法士による障害児へのリハビリテーションと、家に帰ってから親ができるようにするための介護研修。写真右/ミャンマーに駐在する浅野さん



特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン ミャンマー/ドーポン郡区 障害者支援事業 (東京都)

障害者がコミュニティの中で 普通に暮らしていける 地盤づくりを支援する

開発途上国で貧困や飢餓、病気や障害で苦しむ子どもや家族のために、地域に根ざした支援活動を展開している団体がある。「ワールド・ビジョン・ジャパン(以下WVJ)」もその一つである。世界100か国で活動しているワールド・ビジョンの日本事務所、他国の事務所と共通の理念を持ちながら運営や事業活動は独自に行なわれている。「去年の2月からミャンマーに駐在し、首都ヤンゴン近郊のドーポン郡区で障害者のための支援プロジェクトを進めています」とWVJプログラム・オフィサーの浅野恵子さん。

開発途上国で貧困や飢餓、病気や障害で苦しむ子どもや家族のために、地域に根ざした支援活動を展開している団体がある。「ワールド・ビジョン・ジャパン(以下WVJ)」もその一つである。世界100か国で活動しているワールド・ビジョンの日本事務所、他国の事務所と共通の理念を持ちながら運営や事業活動は独自に行なわれている。「去年の2月からミャンマーに駐在し、首都ヤンゴン近郊のドーポン郡区で障害者のための支援プロジェクトを進めています」とWVJプログラム・オフィサーの浅野恵子さん。

浅野さんらの活動は、障害者(02年9月時点で72人)たちが住むその地域に支援グループをつくり、ボランティアの協力を得ながら行う啓発教育や医療・教育支援などが柱だ。障害者とその家族、教師、



障害者と支援団体が力を合わせていけるよう、ミャンマーを代表する支援者団体の組織化も支援

地域住民を集めたワークショップなどで啓発活動を行う。週2回、地元の理学療法士による障害児の治療や親に介護指導をする。障害児を抱える貧困家庭には学費や教科書代などを支給する。自力で通学が困難な子どもにはトゥリシヨ(自転車で引くタクシー)の料金を支給する。学校のトイレや廊下をバリアフリーに改良する。職業訓練の実施や小規模ローンを通して経済的自立を支援する。「そこに住んでいる障害者たちがコミュニティの一員として、できるだけ普通に暮らしていける地盤づくりが私たちの役割です。そのためには障害者を持続的に支援できる活動の輪を広げていくことが必要です」と語る浅野さんは、ミャンマーにある障害者支援団体のネットワーク強化に貢献している。

**2002年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域**

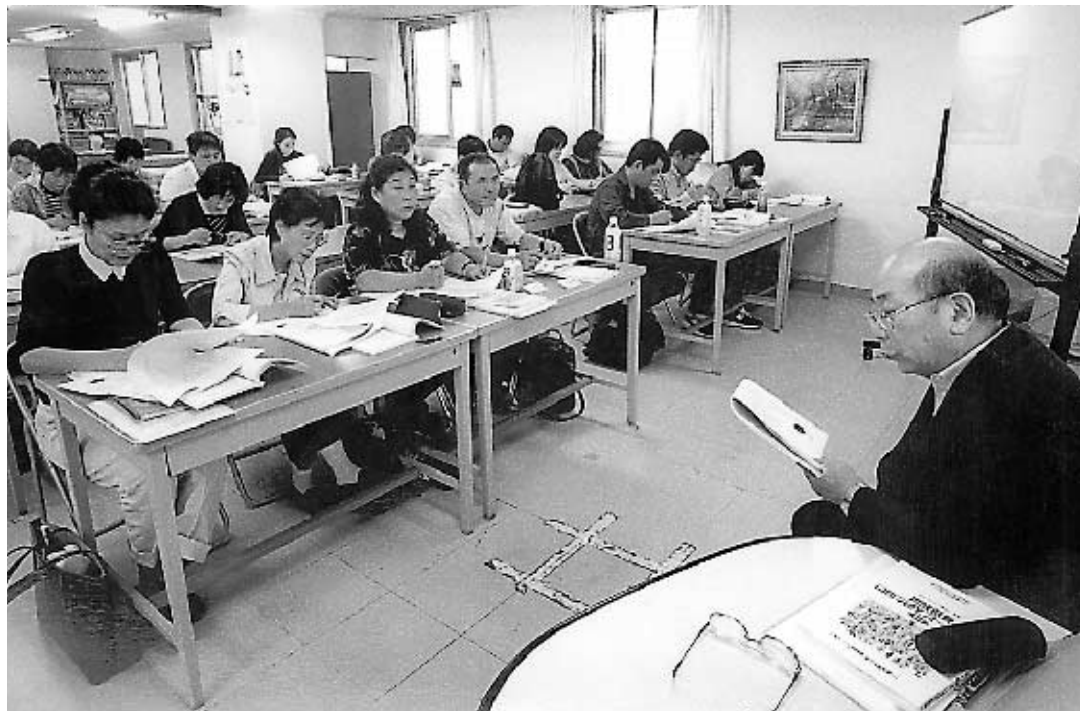
1	重度知的障害者の 「ライザー」サービスの創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリーダム十勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌作連(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・commons(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャンマック(東京都)
7	ミヤンマー/ドーボン郡区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールドビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アムネシア・アジア協会 (東京都)
10	病氣の子ども支援のための 情報発信とネットワーク構築事業 病氣と子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患児、家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビューロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

*他に、12団体が継続助成対象としてプロジェクトを行っています。

**【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに
関する市民活動支援**

2003年度 募集要項

1. 募集期間: 2003年6月16日～7月18日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2004年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:
ファイザープログラム事務局
プログラムの詳細は、こちら
<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy>



写真上/精神科医の宮崎隆吉先生の講義を真剣な表情で受ける当事者と一般支援者たち。写真下/この事業に関わる委員会のメンバー。手前右から時計回りに香木さん、藤田さん、渡口さん、貞丸さん、西脇さん

**兵庫県高齢者生活協同組合
精神障害者ピアヘルパー等
養成事業
(兵庫県)**



ホームヘルパー12級養成課程に精神障害者ホームヘルパー講習を上乘せしたこの講座のもっとも大きな特色

「かかげがえのない役割」を担うために

高齢者・障害者の地域生活支援と就労拡大、生きがいと仲間づくりに努めてきた兵庫県高齢者生活協同組合では、地域に暮らす障害当事者たちからの社会復帰施設建設の要望に心えて01年に精神障害者福祉工場建設委員会を発足。02年には、障害児者への訪問介護を専門的に担うヘルパーステーション「ピアステーションこうべ」を開設した。こうした生活支援体制の中から、今年4月には、精神障害者が資格を取得し、プロのヘルパーとして障害のある当事者にサービスを提供するピアヘルパー等養成講座を開講した。

「私もかつて具合の悪いときには、いろんな人たちに支えられた。その経験をもとに同じ目線で障害者に手を貸したい」と、当事者として受講する渡口泰子さんもこの事業を担当するメンバーだ。

「精神障害の経験者だからできる「かかげがえのない役割」を担うために

は、一般支援者と障害当事者が一緒にあって受講することにある。当事者が長期の講習を満了するには、心の支えになると考えているからだ。「私もかつて具合の悪いときには、いろんな人たちに支えられた。その経験をもとに同じ目線で障害者に手を貸したい」と、当事者として受講する渡口泰子さんもこの事業を担当するメンバーだ。

当事者がヘルプすることで、当事者でなければわからないところに手が届く。「自分もこうだった」と語りかけることが、介護される側にとって精神的な負担の軽減になる。またヘルプする当人も資格を得ることで達成感を獲得し、誰かを支えているということが自己尊敬感を高める。福祉の利用者から提供者へというピアヘルパーの持つ意義は大きい。

「そんな人に人が集まる。だから」という不安を大きく裏切って、受講生募集説明会には一般108名、当事者33名もの人たちが集まった。「受講料の自己負担が少ないということもありますが、やはり一般の方に当事者と勉強することでの心のケアのあり方を学びたいという広がりがあるからだと思う」と同組合の香木明美さんはいう。

今年の10月には第1期修了生(支援者・当事者各15名)を送り出すが、その後の就労を含めて、同じ教室で学んだヘルパー同士のきづなを深めるためのフォローアップ研修を毎月1回は続けていく。「まだ始まったばかりですが、より多くの障害者にピアヘルパーの門戸を開き、それを継続していくことの重要性を痛感しています」と、組合の西脇忠之常務理事は語る。



普通は1日7時間で4か月くらいだが、ここでの講義は午後3～4時間を利用して6か月で行う